

夏に響く 京都の

Echoes of Summer

Kyoto's Rokusai Nenbutsu

六齋念仏

京都の夏に響く、祈りの鉦と太鼓の音。六齋念仏は、お盆の季節に京都各地で受け継がれてきた民俗芸能です。国の重要無形民俗文化財に指定されており、ユネスコ無形文化遺産「風流踊」の一つとして登録されました。本イベントでは、各保存団体による多彩な六齋念仏の魅力をご紹介します。そして、このイベントをきっかけに、ぜひ八月のお盆に京都各地で行われる現地の六齋念仏へ足をお運びください。

2026 (令和8年)

8.1 sat
14:00-16:30

入場
無料

京都文化博物館 別館ホール

〒604-8183 京都市中京区高倉通り三条上る東片町623-1

この催しは入場無料です。お席には限りがありますのでお早めにご来場ください。

プログラム

解説「京都の六齋念仏」ってなんだ? 京都文化博物館 学芸課長 橋本章

実演 1 吉祥院六齋念仏 吉祥院六齋保存会
発願/つつて/お月さん/四ツ太鼓/岩見重太郎/大文字/祇園囃子

実演 2 千本六齋念仏 千本六齋会
打出し/浪花/道成寺/四ツ太鼓/法縁祭/山姥/猿回し/さらし/八鳥/獅子舞/結願念仏

トーク 六齋念仏の魅力と未来 千本六齋会 会長 吹田哲二郎 × 吉祥院六齋保存会 副会長 村田大輔

吉祥院六齋



千本六齋

主催 京の風流踊振興会

後援 (公社)全日本郷土芸能協会 (公財)京都市文化観光資源保護財団

協力 京都六齋念仏保存団体連合会 吉祥院六齋保存会 千本六齋会
京都市文化市民局文化財保護課



本事業は、令和8年度 文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて実施しています。

お問い合わせ先

京都六齋念仏保存団体連合会

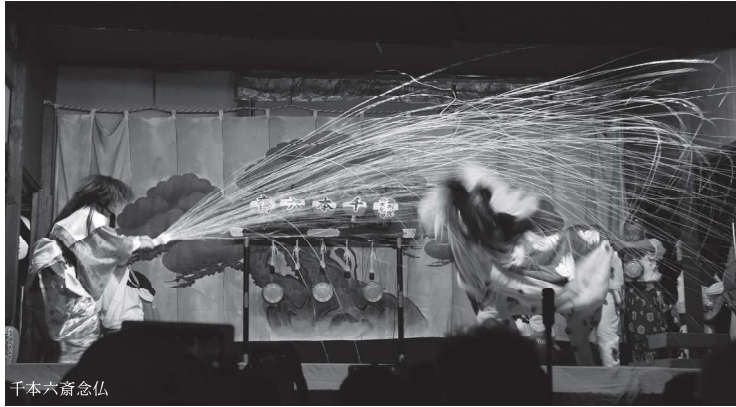
〒601-8182
京都市南区上鳥羽北島田町19(川勝方)
<https://kyoto6931.com/r/>

お問い合わせ
はこちらから



夏に響く 京都の六斎念仏

Echoes of Summer Kyoto's Rokusai Nenbutsu
2026.8.1sat 14:00start



千本六斎念仏

京の風流踊

風流踊(ふりゅうおどり)は、華やかな衣装や趣向を凝らした持ち物を身につけ、歌や笛、太鼓、鉦(かね)に合わせて踊る日本の伝統的な民俗芸能です。除災や死者供養、豊作祈願など、人々の安寧な暮らしを願う祈りが込められています。

令和4年(2022)11月、全国24都府県に伝わる代表的な民俗芸能41件が「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。京都からは、「やすらい花」、「久多の花笠踊」、そして「京都の六斎念仏」が登録されています。

京都の六斎念仏

六斎とは、もともと毎月8日、14日、15日、23日、29日、30日の計6日の斎日のことで、悪鬼が人命を奪う不吉の日とされ、この日に念仏や和讃などを唱え、鉦太鼓などで囃したのが六斎念仏の始まりと伝わっています。京都の六斎念仏は、念仏系(発願、回向唄など)、芸能系(道成寺、鉄輪など)、のほか、祇園囃子、四ツ太鼓などがあり多種多様であることが特徴です。国の重要無形民俗文化財に指定されており、現在、13の保存団体がお盆などを中心に京都各地で活動しています。

出演者 & 出演団体紹介

トークパネリスト

吹田哲二郎 千本六斎会 会長

千本六斎会会長。西陣に伝わる千本六斎念仏の伝承者として笛を担当し、お盆の棚経や奉納公演を中心に活動している。また、失われた演目の復曲や資料調査にも取り組み、六斎念仏の継承と記録に力を注いでいる。京都市立芸術大学非常勤講師。音を用いた芸術表現の研究・制作にも取り組んでいる。



トークパネリスト

村田大輔 吉祥院六斎保存会 副会長

吉祥院六斎保存会副会長。京都市南区生まれ。吉祥院六斎念仏では、木村会長とともに長年「獅子」の演じ手として活躍。また小学生対象の「子ども六斎チャレンジ体験」などを企画運営し、地元の担い手育成に大きく貢献している。



司会/コーディネーター

金ヶ江七海

京都市出身。小学生4年生から中堂寺六斎会へ所属。京都府立鳥羽高校へ進学後、放送部で活動しNHK杯京都府下大会および全国総合文化祭にて受賞歴あり。奈良県立大学地域創造学部へ進学後も京都市内で司会活動を継続。現在は、伝統文化にまつわるシンポジウムやイベントでの司会者として活躍するほか、中堂寺六斎念仏の奉納や出張公演において解説や紹介を担当。



吉祥院六斎念仏 Kissyoin Rokusai nenbutsu

吉祥院六斎念仏のおこりは、天正10年(1582)の山崎の戦いで羽柴秀吉に敗れた明智軍の残党がここ吉祥院で多数戦死し、その霊を弔うために始まったと言われます。清水寺『成就院日記』には文政11年(1828)~文久3年(1863)に「吉祥院村」奉納の記録がみえ、江戸後期までに成立していた芸能六斎の講中です。

戦前の吉祥院は8つ(東条・西条・南条・北条・石原・新田・中河原・島)の講中が競い合う六斎の盛んな地域でしたが、昭和30年代には菅原町(南条)のみとなりました。現在は地元・吉祥院天満宮の春・夏の大祭での一山打ちを中心に活動しています。

千本六斎念仏 Senbon Rokusai nenbutsu

千本六斎念仏は、西陣地区に伝わる六斎念仏です。昭和29年(1954)に前身である「閻魔堂前六斎」の芸を受け継ぎ発足し、講中棚経や千本ゑんま堂(引接寺)への奉納を中心に、今日まで継承されてきました。

西陣の職人文化を背景に磨かれた芸能であり、浴衣の着付けや舞台姿にも細やかな工夫が受け継がれています。また、伝統を守りながら新しいものを柔軟に取り入れる土地柄を反映し、軽快でリズムカルな囃子や躍動感ある演出を特色としています。

手踊り、独特の姿で跳ね回る獅子舞、金襴の衣装が華やかな『蜘蛛の精』など、千本六斎ならではの賑やかな芸能をご覧ください。



吉祥院六斎念仏

アクセス access

地下鉄	至国際会館 [丸丸御池駅]下車【5】番出口から三条通りを東へ徒歩3分
阪急	至太秦天神川 [丸丸駅]下車【16】番出口から高倉通りを北へ徒歩7分
京阪	至出町柳 [三条駅]下車【6】番出口から三条通りを西へ徒歩15分
JR・近鉄	至六地藏・浜大津 [京都駅]から地下鉄へ
市バス	至淀屋橋・中之島 [堺町御池]下車、徒歩2分

至国際会館
至出町柳
至六地藏・浜大津
至淀屋橋・中之島